

ウイルス感染症の感染様式について

西村 秀一

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター ウイルスセンター

日常的感染症でも新興感染症でも、感染症を何とかしようとする上で、当該感染症の感染経路を知る事は非常に大事である。また、医療従事者、検査技師としての日常業務の上でそれが必要な場合もあるし、社会人としてあるいは家庭人として生活を送る上でも、その常識的な知識は必要であろう。本講演では、感染症の病原体の伝搬とそれによる感染伝播とその防理屈に合った防御法について、総論的なまとめをわかりやすくやってみたい。その上で、代表的な感染症の各論に入れればと思う。

とくにこの度の新型コロナやインフルエンザの感染・伝搬様式である airborne transmission について歴史的変遷からその中心をなすエアロゾルの理論面やそこに含まれるウイルスのウイルス学的な考え方とそれに対する合理的な対策、間違った対策について新型コロナを例に解説してみたい。

また、本抄録の提出が求められている8月中旬、アフリカでのM-poxの流行が拡大し、変異株感染者がアフリカ以外にも出てきている。学会の開かれる4か月後の12月中旬、流行の広がりがどうなっているかは今の時点で予測もつかないが、収束していない場合にはM-poxの感染様式についても何らかの情報提供ができればと思う。